

令和3年度上半期 生活支援コーディネーターの主な取り組み(高齢者等の暮らしを豊かにする地域づくりの支援)

I 市域の取り組み(抜粋)

1. 高齢者を見守る地域福祉活動の推進・支援

コロナ禍で高齢者が孤立しやすい状況になっているからこそ、つどい・サロン(通いの場)やいきいき百歳体操、見守り訪問といった身近な地域での福祉活動を促進・支援しました。

※社協独自財源による助成金事業(86 か所、2,095,000 円)、地域福祉活動情報紙の発行等

2. 高齢者の社会参加の促進

市内 109 か所のつどい・サロン(通いの場)やいきいき百歳体操等の開催情報写真・動画を掲載した『地域のつどい場マップ(ネット版と冊子版)』を作成し、広く情報発信しました。その結果、実際にご覧になられた高齢者やその家族が関心を持たれ、「行ってみたい(通わせたい)」という問合せを受けました。

※Web ページ閲覧回数/約 35,000 回 冊子発行部数/2,300 部(R3.9 時点)

II 各地域での取り組み例

事例①高齢者が活躍する子ども食堂の立上げ支援

住宅街、商店街、農業地域などの多様な家庭環境の子どもがいる地域で、まちづくり協議会を主体に子ども食堂を立ち上げることとなり、『子ども食堂ボランティア養成講座』の企画を支援しました。とりわけ、普段はいきいき百歳体操に来られている高齢者にも、ボランティアとして呼びかけることを勧め、80 代の高齢者を含む約 20 名から講座への申込みがありました。



▲いきいき百歳体操の様子

事例②民生委員・児童委員の見守りネットワークカアップに向けた学習会の開催

急速な高齢化が進んでいる地域の民生委員児童委員協議会で見守りをテーマにした学習会を地域包括支援センターと共催しました。

参加された民生委員からは、「民生委員だけでは大変と思っていたが、近所の人や専門職などのあらゆるつながりを活かした見守りの仕方があると知り、ホッとしました」とあり、見守りネットワークの強化につながりました。また、後日、実際の個別支援ケースで地域活動者と専門職が協働を図る、『個別ケア会議』が開催されるまでに至りました。



△学習会の様子